

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】令和6年6月10日(2024.6.10)

【国際公開番号】WO2020/201079

【公表番号】特表2022-526795(P2022-526795A)

【公表日】令和4年5月26日(2022.5.26)

【年通号数】公開公報(特許)2022-093

【出願番号】特願2021-558542(P2021-558542)

【国際特許分類】

C 07 D 401/14(2006.01)

C 07 D 403/04(2006.01)

A 01 N 25/00(2006.01)

A 01 P 7/04(2006.01)

A 01 P 7/02(2006.01)

A 01 P 5/00(2006.01)

A 01 P 15/00(2006.01)

A 01 N 43/60(2006.01)

A 01 N 47/02(2006.01)

A 01 N 53/14(2006.01)

A 01 M 1/20(2006.01)

10

20

30

40

50

【F I】

C 07 D 401/14 C S P

C 07 D 403/04

A 01 N 25/00 102

A 01 P 7/04

A 01 P 7/02

A 01 P 5/00

A 01 P 15/00

A 01 N 43/60

A 01 N 47/02

A 01 N 53/14

A 01 M 1/20 A

【誤訳訂正書】

【提出日】令和6年5月31日(2024.5.31)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

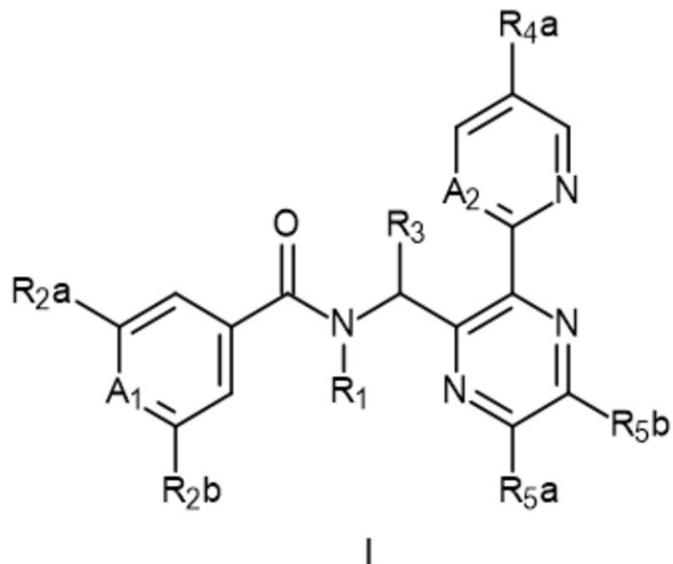
【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

式 I

【化1】



(式中、

R₁は、H、C₁～C₆アルキル、C₁～C₆シアノアルキル、アミノカルボニルC₁～C₆アルキル、ヒドロキシカルボニルC₁～C₆アルキル、C₁～C₆ニトロアルキル、トリメチルシランC₁～C₆アルキル、C₁～C₆ハロアルキル、C₂～C₆アルケニル、C₂～C₆ハロアルケニル、C₂～C₆アルキニル、C₂～C₆ハロアルキニル、C₃～C₄シクロアルキルC₁～C₂アルキル-、C₃～C₄シクロアルキルC₁～C₂アルキル-（ここで、前記C₃～C₄シクロアルキル基は、1個若しくは2個のハロ原子で置換されている）、オキセタン-3-イル-C₁H₂-、ベンジル又はハロ若しくはC₁～C₆ハロアルキルで置換されたベンジルであり；

A₁は、N又はC-R_{2c}であり；

R_{2c}は、H、ハロゲン、C₁～C₃アルキル、C₁～C₃ハロアルキル、C₁～C₃アルコキシ、又はC₁～C₃ハロアルコキシであり；

R_{2a}は、C₃～C₆シクロアルキル、C₃～C₆シクロアルコキシ；C₁～C₃アルキル、C₁～C₃ハロアルキル、C₁～C₃アルコキシ、シアノ、及びハロゲンから独立して選択される1～3個の置換基で置換されたC₃～C₆シクロアルキル；C₁～C₃アルキル、C₁～C₃ハロアルキル、シアノ、及びハロゲンから独立して選択される1～3個の置換基で置換されたC₃～C₆シクロアルコキシ；C₃～C₆シクロアルキルC₁～C₄アルキル、C₃～C₆シクロアルキルC₁～C₄アルコキシ；C₁～C₃アルキル、C₁～C₃ハロアルキル、C₁～C₃アルコキシ、シアノ、及びハロゲンから独立して選択される1～5個の置換基で置換されたC₃～C₆シクロアルキルC₁～C₄アルキル；C₁～C₃アルキル、C₁～C₃ハロアルキル、シアノ、及びハロゲンから独立して選択される1～5個の置換基で置換されたC₃～C₆シクロアルキルC₁～C₄アルコキシ；C₁～C₅シアノアルキル、C₁～C₄アルキルスルホニル、C₁～C₄ハロアルキルスルホニル、C₁～C₄アルキルスルフィニル、又はC₁～C₄ハロアルキルスルフィニルであり；

R_{2b}は、H、ハロゲン、C₁～C₃アルキル、C₁～C₃ハロアルキル、C₁～C₃ハロアルキルチオ、C₁～C₃アルコキシ、C₁～C₃ハロアルコキシ、SF₅、又はCNであり；

R₃は、C₁～C₃アルキル又はC₁～C₃ハロアルキルであり；

A₂は、CR_{4b}又はNであり；

R_{4b}は、水素、又はハロゲンであり；

R_{4a}は、シアノ、又はC₁～C₃ハロアルコキシであり；

R_{5a}及びR_{5b}は、互いに独立して、水素、ハロゲン、CN、C₁～C₃アルキル、C₁～C₃ハロアルキル、C₃～C₄シクロアルキル、C₁～C₃アルコキシ、及びC₁～C₃ハロア

10

20

30

40

50

ルコキシから選択される)の化合物; 又は式Iの前記化合物の農芸化学的に許容可能な塩、立体異性体、鏡像異性体、互変異性体又はN-オキシド。

【請求項2】

R₃は—メチルである、請求項1に記載の化合物。

【請求項3】

A₁は—Nである、請求項1又は請求項2に記載の化合物。

【請求項4】

A₁は—C-R_{2c}であり、ここで、R_{2c}は、水素又はハロゲンである、請求項1又は請求項2に記載の化合物。

【請求項5】

R_{2c}は、水素である、請求項4に記載の化合物。

【請求項6】

R₁は、水素、メチル、エチル、n-プロピル、イソブチル、シクロプロピルメチル又はH-C—C-C-H₂-である、請求項1～5のいずれか一項に記載の化合物。

【請求項7】

R_{2a}は、C₃～C₆シクロアルキル、C₃～C₆シクロアルコキシ; C₁～C₃アルキル、C₁～C₃ハロアルキル、C₁～C₃アルコキシ、シアノ、及びハロゲンから独立して選択される1～3個の置換基で置換されたC₃～C₆シクロアルキル; ハロゲン及びC₁～C₃ハロアルキルから独立して選択される1～5個の置換基で置換されたC₃～C₆シクロアルキルC₁～C₄アルキル; C₁～C₅シアノアルキル、C₃～C₆シクロアルコキシ、C₁～C₄ハロアルキルスルホニル又はC₁～C₄ハロアルキルスルフィニルである、請求項1～6のいずれか一項に記載の化合物。

【請求項8】

R_{2b}は、ハロゲン、C₁～C₃ハロアルキル、C₁～C₃ハロアルキルチオ、C₁～C₃アルコキシ、C₁～C₃ハロアルコキシ、又はCNである、請求項1～7のいずれか一項に記載の化合物。

【請求項9】

R_{4a}は、シアノ、又はC₁～C₃フルオロアルコキシである、請求項1～8のいずれか一項に記載の化合物。

【請求項10】

A₂は—Nである、請求項1～9のいずれか一項に記載の化合物。

【請求項11】

A₂は—C-Hである、請求項1～9のいずれか一項に記載の化合物。

【請求項12】

R_{5a}及びR_{5b}は、互いに独立して、水素、ハロゲン、及びメチルから選択される、請求項1～11のいずれか一項に記載の化合物。

【請求項13】

請求項1～12のいずれか一項に記載の化合物、1種以上の助剤及び希釈剤、並びに任意に1種以上の他の有効成分を含む、殺有害生物用組成物。

【請求項14】

(i) 昆虫、ダニ類、線虫又は軟体動物を駆除及び防除する方法であって、有害生物、有害生物の生息地、又は有害生物による攻撃を受けやすい植物に、殺虫的、殺ダニ的、殺線虫的又は殺軟体動物的に有効な量の、請求項1～12のいずれか一項に記載の化合物又は請求項1～3に記載の組成物を適用することを含む方法; 又は

(ii) 昆虫、ダニ類、線虫又は軟体動物による攻撃からの植物繁殖材料の保護のための方法であって、前記繁殖材料又は前記繁殖材料が植えられている場所を、有効量の、請求項1～12のいずれか一項に記載の化合物又は請求項1～3に記載の組成物で処理することを含む方法; 又は

(iii) 請求項1～12のいずれか一項に記載の化合物又は請求項1～3に記載の組成物を有効量で投与することを含む、必要としている非ヒト動物の体内又は体表において寄

10

20

30

40

50

生虫を防除する方法。

【請求項 1 5】

請求項 1 ~ 1 2 のいずれか一項に記載の化合物又は請求項 1 3 に記載の組成物を含むか、又はそれで処理されているか若しくはそれに付着されている、植物繁殖材料。

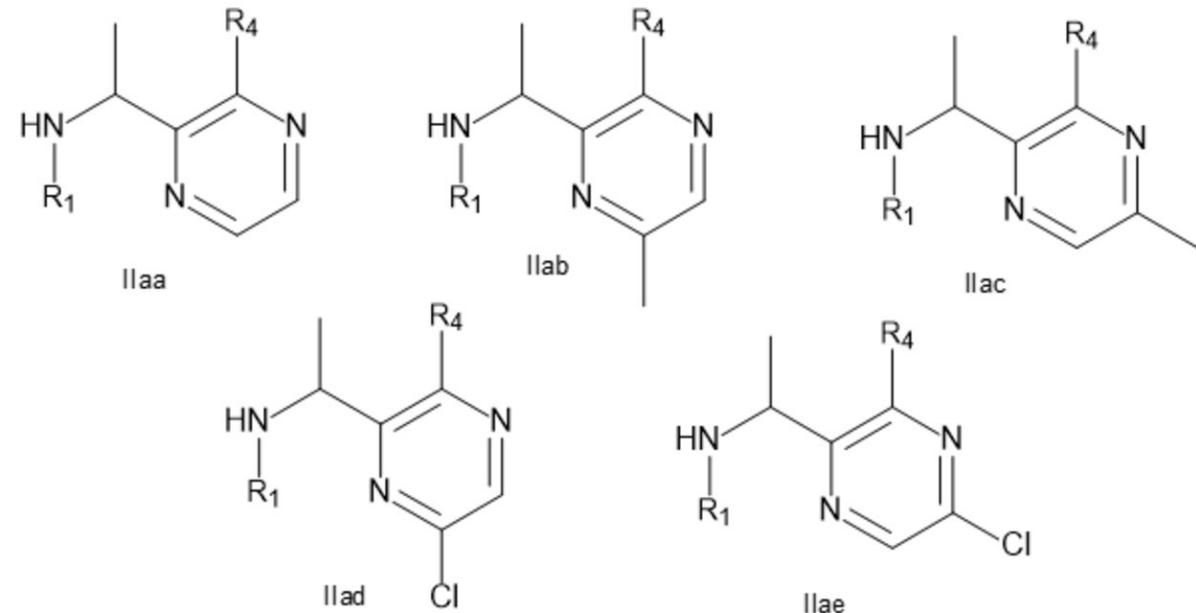
【請求項 1 6】

植物繁殖材料は、種子、果実、塊茎、カーネル、苗、吸枝、穀粒、鱗茎、根茎、挿し木、又は挿し芽である、請求項 1 5 に記載の植物繁殖材料。

【請求項 1 7】

式 I I a a ~ I I a e

【化 2】



(式中、R₁は、請求項 1 又は 6 のいずれかに定義されているとおりであり、R₄は、式 I 中の A₂及び置換基 R_{4a}を含有する環式基であり、ここで、A₂及び R_{4a}は、請求項 1 、 9 、 10 又は 11 のいずれか一項に定義されているとおりである)の化合物。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 4 9 7

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 4 9 7】

本発明の式 I の化合物及びその組成物は、上記のタイプの有害生物からの、植物繁殖材料、例えば果実、塊茎又はカーネルなどの種子又は苗の保護にも好適である。繁殖材料は、植え付けの前にこの化合物で処理され得、例えば、種子は、種まきの前に処理され得る。代わりに、この化合物は、種子仁を液体組成物に浸漬することによって又は固体組成物の層を塗布することによって種子仁に塗付され得る(コーティング)。繁殖材料が施用の場所に植え付けられる場合、この組成物を例えばドリルまき時に畝間に施用することも可能である。植物繁殖材料のためのこれらの処理方法及びこのように処理された植物繁殖材料は、本発明のさらなる主題である。典型的な処理率は、植物及び防除される有害生物 / 真菌に応じて決まり、一般に、1 0 0 k g の種子当たり 1 ~ 2 0 0 グラム、好ましくは、1 0 0 k g の種子当たり 5 ~ 1 5 0 グラム (1 0 0 k g の種子当たり 1 0 ~ 1 0 0 グラムなど) である。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

30

40

50

【訂正対象項目名】 0 4 9 8

【訂正方法】 変更

【訂正の内容】

【0 4 9 8】

種子という用語は、真正種子、種子片、吸枝、穀粒、鱗茎、果実、塊茎、穀粒、根茎、挿し木、挿し芽などを含むが、これらに限定されないあらゆる種類の種子及び植物の珠芽を包含し、好ましい実施形態において、真正種子を意味する。

10

20

30

40

50